

世界漫遊特集 vol.5 2015年11月号

韓国・ソウル「東大門」

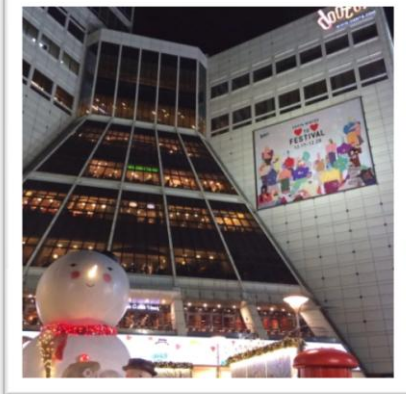
文・蒲原 彩乃

一人でソウルに行く時は、必ず東大門に宿を取る。一度蚕室という江南寄りの宿に泊まったが、良かったのは毎回漢江にかかる橋を往ったり来たりする時に景色を楽しめることだけだった。つまり、わたしの活動基盤は漢江の北にある。その主だったところの一つが、東大門である。



2013年12月、深夜12時頃の東大門。ゲストハウスの屋上から撮影。

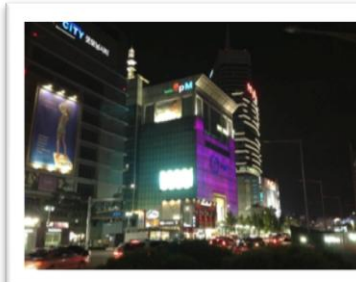
東大門は深夜、終電が終わっても営業しているファッショントテナントビルが集うことで有名だ。東大門で面白い物を楽しむ人のための深夜バスが開通される前から、深夜3時でも若者から観光客までが行き交っていた。ファッショントテナントビルの中にはチェーン展開している焼肉の有名店や軽食屋が並び、東大門で深夜まで働く若い女性からおばちゃんまでが一人で深夜に食事しやすい環境が整っている。それは一人飯がしにくいソウルで一人旅をすることが多い私にとって有難い。



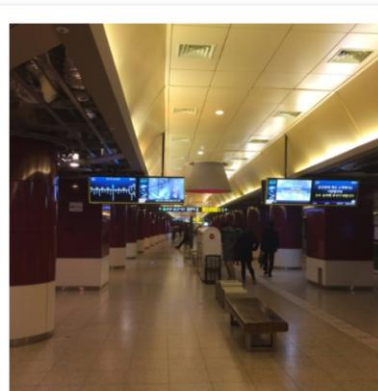
2013年クリスマスは過ぎていたが、年が明けるまでこのままだった。こちらも深夜12時頃のdoota前。

ただし、東大門の中心地を大通り一本挟んだだけで酔っ払ったおじさんがタクシーに乗車拒否され、若いカップルがひつつきながらモーター街の方へ歩いていく姿も見られる。かと思えば高校生くらいの女の子達が私服に着替えファストフード

店で喋っていたりもする。彼女らにはそういう光景すら日常の一つなのかもしれない。実際、乗車拒否されている酔っ払いのおじさんが同じ横断歩道の信号待ちにいても、人々から好奇の目や嫌悪などはあまり感じられなかった。



東大門歴史文化公園駅は3本の主要地下鉄路線が通り、とても交通の便が良い。終電で汝矣島や弘大や新村、建大入口から帰って（どこも大体20〜30分くらい）、歩き回って疲れた重い足を引きずってでも行きつけの粉食（軽食）屋に入り、キムパ（韓国海苔巻き）やキムチチャーハンやキムチチゲを食べる。それから近くのファッショントビルや屋台でふらっと買い物し、徒歩圏内の宿に帰る。夏に友達と飲んだ夜は、その粉食屋でしめの冷麺を一人食べる。



2013年12月30日、汝矣島から終電で東大門歴史～駅に戻ってきたら、ホームの照明が落とされかけていた。

東大門はよく眠らない街だとも言われるし、実際遅くまで人々が働いている。一人で自由に行動できるし、夜でも普通の人々とコミュニケーションがとれる。それを考えると、交通の良さや愛着を抜きにしても、夜型人間一人旅の良さを十分に味わえる気がするのである。